

特集

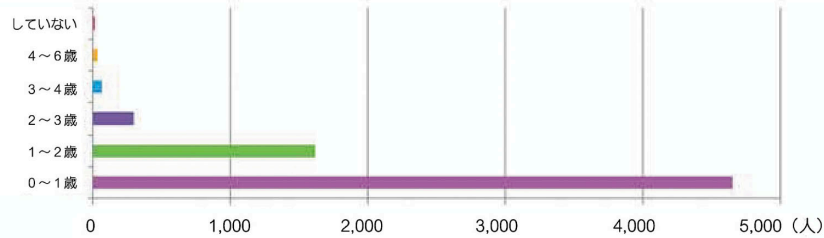
「本との出会い」

●アンケートの結果

今回は、幼児期の子どもがどのように本と出会うのか、保護者がどんな思いを持っているのか、「本との出会い」についてアンケートに答えていただきました。

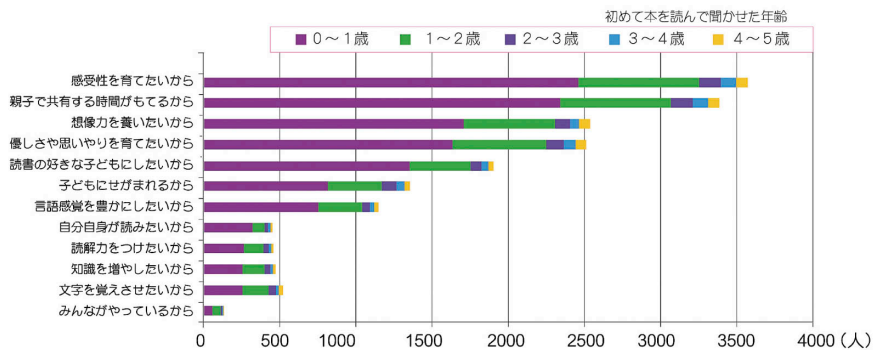
(対象：県内の3～5歳の子どもをもつ保護者 回答数：6,671件)

Q1.初めて本を読んで聞かせたのはいつごろですか。



- アンケートに答えていただいたほとんどのご家庭で、2歳までに本を読んで聞かせているようです。子どもに本を読んで聞かせることを大切に思っているご家庭が多いことがわかります。

Q2.どんな思いで本を読んでいますか？(3つまで選択) (Q1で解答した年齢別)



- 「感受性」「想像力」「優しさや思いやり」などが上位を占めていることから、保護者が知識面よりも情操面を大切に思いながら本を読んでいることがうかがえます。
- 「親子で共有する時間をもてる」という回答が2番目に多いことから、本を読んで聞かせることは親子でふれあう時間の過ごし方として大切であるととらえているようです。

○このプログラムに関する資料のデータは以下のHPからダウンロードできます。

栃木県総合教育センター 幼児教育部ホームページ <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/youji/>

ねるときの本

ぼくのいえでは、ねるときいつもおかあさんかおとうさんが、本をよんでくれます。本をよめないときは、おはなしをきかせてくれます。まいにちねるまえにぼくとおとうとは、きょうのねるときの本をきめるのがとてもたのしみです。でも、ときどきおなじ本になって、けんかになってしまいます。すると、「きょうはよまないよ。」とおとうさんにいわれるので、ぼくとおとうとはすぐに「ごめんさいをいいます。」

いま、ぼくがすきな本は『おおきな木』という本です。おとうさんがなつやすみにかつてくれました。ちびっこがおおきな木といつしよにあそんでいるところがだいすきです。でも、おおきな木がきられてしまうところがとてもかわいそうでした。まいにちおなじ本をもつていくと「ちがう本にしたら。」といわれるけれど、ぼくはきょうも『おおきな木』をよんでもらいたいです。

おとうとがすきな本は『あおくんときいろちゃん』という本です。ぼくもほいくえんのとき大すきでした。あおくんときいろちゃんもほいくえんになって、みどりちゃんになるところがとてもふしぎです。

ぼくとおとうとは、ねるときに本をよんでもらうと、よくねむれるので大すきです。

河内町立岡本北小学校 二年 Kさん

○このプログラムに関する資料のデータは以下のHPからダウンロードできます。

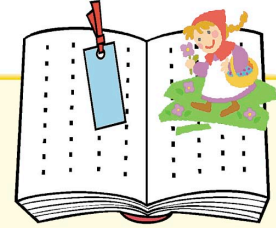
栃木県総合教育センター 研究調査部ホームページ

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/menu.htm>

(調査研究カテゴリー別一覧→読書に関する調査研究)



資料1 子ども会議（伊万里市）のつづき



②『うちどく』をすれば、家族の会話は変わる？

★全員：「変わる、変わる！」

Cくん：「『うちどく』をきっかけにいろんな話ができるよね。だから、ひとりで悩まなくても良くなったね。」

Fさん：「そうそう、今日の出来事とか気軽に話せる。」

Dさん：「本の話をするだけでも楽しいよね。」

Bくん：「会話じゃないけど『うちどく』を始めてから、家の本棚に『うちどく』コーナーができたし。」

……（他の人から、へーという声）……

Eくん：「あっ、うちもだよ！ 僕んちはベッドに『うちどく』の本棚があるよ。」

Aくん：「ちょっとみんな、聞いていい？ みんなは同じ場所で『うちどく』やってるの？ 僕の家は毎回違う場所でやってるんだ。」

……（みんなから「どこで？」という声）……

Aくん：「台所とか、リビングとか、ベッドとか…」

Dさん：「それ、おもしろ～い。」

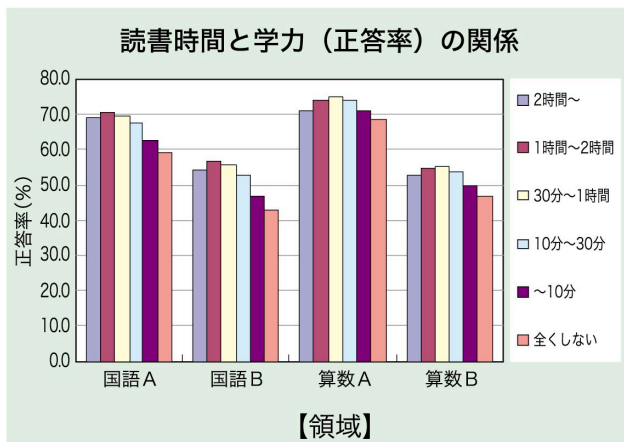
Cくん：「読書の秋だから、家の中のいろんな場所で『うちどく』始めよう！って、いいかも。」

★全員：「いいね、いいね！」

【出典】(株)トーハン：朝日新聞 2007年10月27日付 広告記事より抜粋

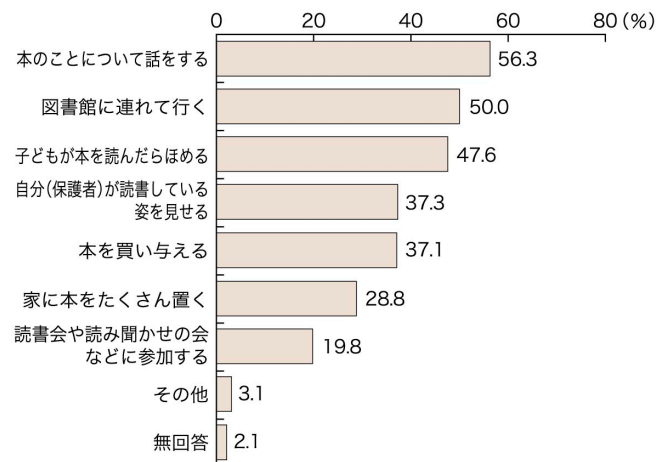
資料2 平成20年度全国学力・学習状況調査結果より
～文部科学省～

読書をする子の方が、国語・算数とも正答率が高い。



資料3 平成16年度 親と子の読書活動等に関する調査
(財)日本経済研究所

図表3-2-8 子どもの読書活動を推進するために必要なこと〈家庭での活動〉(全体)



保護者回答